

ドイツの青少年芸術学校に関する研究 —先行研究と教育理念の変遷に関する調査を中心に—

山成 美穂（初等教育学科・准教授）

1. 研究の目的

本研究は、ドイツの青少年芸術学校（Jugendkunstschule）に関する継続研究のひとつである。ドイツの青少年芸術学校は児童・青少年¹を対象とした芸術教育の学校外教育施設であり、1960年代に発祥してから現在に至るまでの間にドイツ各地で次々と数が増え、より一層の活発な展開を遂げている。その中には公的な資金援助によって活動を支えられている施設も多く存在し、社会的理解と経済支援に支えられる青少年育成の形として注目に値するものであると考える。同時に、児童・青少年に対して、なぜ、なんのために、どのようにして、どのような芸術教育を行うのかを問うためにも、その動向に着眼し継続的に調査することによって、美術の教育者としての自己の視座を高めたいと考えている。本研究では2010年前後からの青少年芸術学校の状況を調査するにあたり、先行研究の整理と現地における訪問調査を手掛かりに、その教育理念の変遷と現状について調べたいと考えている。

2. 研究計画

本研究は、当該研究に関する文献調査、現地視察およびドイツの青少年芸術学校関係者へのインタビュー調査を2019年度と2020年度の2年間で行う予定であった。しかし、2020年度はコロナ禍による世界的なパンデミックにより世界全体が想像を絶する様変わりや余儀無くされ、計画していた現地調査を中心軸に据えた研究内容は保留とし、2021年度に延期せざるを得ない状況となった。そのため当初の研究計画を変更し、3年間で行うことになった。各年度の研究概要は下記の通りである。

（1）2019年度の研究概要

① ドイツにおける文献調査

青少年芸術学校の歴史が長いノ르트ライン・ヴェストファーレン州を訪問し、青少年芸術学校・文化教育施設連盟（Bundesverband der Jugendkunstschulen und kulturpädagogischen Einrichtungen e.V./BJKE）の協力を得て過去10年間を中心としたドイツで刊行された青少年芸術学校と文化教育に関する研究資料、書籍、ジャーナルに関する情報収集を行った。

② 訪問調査

ノ르트ライン・ヴェストファーレン州にある2つの青少年芸術学校を訪ね現状視察を行った。訪問施設はデュッセルドルフの青少年芸術学校「Akki-Aktion & Kultur mit Kindern e.V.」と、ケルンの青少年芸術学校「Jugend-Kunstschule Rodenkirchen e. V.」である。

（２）2020年度の研究概要

青少年芸術学校の近年の動向と教育理念に関する文献の整理と分析を、『青少年芸術学校ハンドブック-コンセプト・構造・組織（Jugendkunstschule Das Handbuch/2003）』、

『文化教育ハンドブック（Handbuch Kulturelle Bildung/2012）』、文化教育の機関誌『Infodienst-Das Magazin fuer Kulturelle Bildung』を中心に行った。

（３）2021年度の研究概要

青少年芸術学校関係者へのインタビューまたはアンケート調査。青少年芸術学校の現状と現在の芸術教育理念について異なる状況、立場の見解を調べ、文献調査による内容と照合し考察する。この調査は可能であれば現地に訪問し、直接対面してインタビューしたいと考えている。しかし、コロナ禍の感染拡大状況によっては訪問調査ではなくインターネットを利用した遠隔調査に変更を検討中である。

3. 研究の進捗状況（2020年度）

青少年芸術学校に関係する文献調査を進めるにあたり、管見の限りでは日本におけるドイツの青少年芸術学校に関する先行研究は大変数が乏しい。今年度の研究では、あらためて、「青少年芸術学校とは何か？」という問題意識で現在の実像へ迫ることを試み、青少年芸術学校に関係するドイツ語の文献を中心に調査を進めている。

〈「青少年芸術学校」という名称についての検証〉

青少年芸術学校の認識に対して混乱を招く恐れのある語句の問題について、改めて理解の整理を行い、そこから青少年芸術学校の特徴について考察した。青少年芸術学校は「Jugendkunstschule」を訳したもの²であるが、その内容を理解する上では、「青少年」＋「芸術」＋「学校」という言葉のままでは、その実像を表しきれない部分が多い。「Jugendkunstschule」は1967年の教育改革会議における青少年芸術学校構想によって導入された教育機関のコンセプトであるが³、総称としての「青少年芸術学校 Jugendkunstschule」が、「Jugend-」「kunst-」「-schule」の3つを組み合わせることで示される言語となった背景は、理念的な原因によるものではなく、その名称が長くならないためという理由によるからである。⁴

①「青少年 Jugend-」について

「青少年」とはいうものの、実際には乳幼児、幼児、児童、まだ社会に出ていない成人した若者も含まれている。これは、ドイツでも紛らわしい問題として捉えられており、現に青少年芸術学校に関する文献では、「Jugend」に補完して「子ども Kinder」が並列して記載されていることがほとんどである。そして、この「子ども Kinder」は、乳幼児も含まれた広義で使われている。つまり、「青少年芸術学校」における「青少年」は、1歳児くらいから25歳前後くらいまでの「子どもたちと若者」を指し示すと捉えることが必要であると考えられる。

②「芸術-kunst」について

「Jugendkunstschule」における「-kunst」は、とても大きな問題を含んでおり、そこについて触れておくことは避けて通ることができない。「美術」と捉えるべきか「芸術」と捉えるべきかは難しいところである。様々な翻訳機能を使って「Jugendkunstschule」を変換すると出てくる訳語は「青少年美術学校」であるが、「美術」として捉えることは、その活動内容を理解する上で不十分であり、誤解を招く恐れがあり正しいとは言い難いと考える。後述する「Jugendkunstschule」の活動理念にあるように、そこであつかわれている表現活動は、造形美術が中心になっているものの、それだけではなく演劇、文学、音楽³、マルチメディアによる表現など多様である。そのため「美術」よりは総合的なイメージの強い「芸術」という語句がふさわしいだろう。しかしながら、「Jugendkunstschule」に関する文献では、「文化教育施設 Kulturpaedagogische Einrichtungen」という語句が併記されているものがほとんどである。⁴なぜ、「文化教育施設 Kulturpaedagogische Einrichtungen」という語句を補完しなければならないかといえ、ば、「芸術」という言葉では表しきれない、「より身近で日常的な万人の営みとしての表現活動」のための教育施設であるというニュアンスを表すことを必要としているからだと考えられる。それは言い換えると、特別に秀でた才能に恵まれている選ばれた児童・青少年のための芸術表現をより磨き上げるためのものではないということを理解した上での「芸術」として捉えることが必要だと考える。

③「学校-schule」について

「Jugendkunstschule」における「-schule」を「学校」と訳したときに生じる可能性のある誤認識について理解しておくことは、青少年芸術学校についての理解を深める上で大切であるだろう。メヒテヒルド・アイコフ氏によると、青少年芸術学校は、「学校外における子どもと青少年教育活動の機関である。」⁷とされており、学校外の（ausserschulische）「学校」だからである。青少年芸術学校連盟（BJKE）⁸のウェブサイト⁹では「青少年芸術学校には、毎年50万人の子どもと若者が、彼らの余暇（Freizeit）に、視覚芸術、ダンス、演劇、写真、音楽、文学、映画、ビデオ、新しいメディアや枠を超えた表現分野のプロジェクトのために訪れる。」と記載されており、基本的には「余暇（Frei-自由な-Zeit-時間）」に通う場所であるというイメージが必要である。つまり、ここでいうところの「学校」は、本来「余暇教育機関」ないし「余暇教育施設」と認識し、従来の一般的な意味合いにおける「学校」とは、確実に区別する必要がある。特に、従来の意味における「学校」と青少年芸術学校は活動形態と教育内容において密接な関係にあり、互いに連携、補完、協力関係にあるため、学校とは違う教育機関として「Jugendkunstschule」を捉えることは欠かせないことである。以上のような混乱・混同を招く言葉であるにも関わらず、なぜ、「Jugendkunstschule」において、「学校」という言葉を用いるのかということについては、かつて自著で記したように¹⁰、ここで用いられる「学校」は、社会的通念としての意味ではなく、ラテン語の「schola」にその語源を求めるべきだと考える。ラテン語の「schola」は、「講義、教える場所」の意をもち、青少年芸術学校における「学校」には、「専門的な学びの場」としての意味付けを含ませる役割が果たされていることを合わせて理解する必要があるだろう。

④ 総称としての「青少年芸術学校」

①～③に記した通り、「Jugendkunstschule」を日本語で捉える際に取りこぼしが生じないように注意を払う必要があることが明らかになったが、この問題はドイツでも「Jugend kunstschule」の指し示す範囲についての様々な反応があることを理解しておく必要がある。前述したように、「青少年芸術学校 Jugendkunstschule」について記載される際には、ドイツの文献では「文化教育施設 kulturpädagogische Einrichtungen」という語句が補完ないし併記されていることから、「Jugendkunstschule」という言葉だけでは、その実質を表現しきれない要素があることに対して、意識的な配慮が施されていることが多い。語句が持つニュアンスに対する鋭敏な反応として、青少年芸術学校の活動とされている施設には、意図的に別の名称で施設を運営しているものが多く存在するのである。¹¹

〔青少年芸術学校に準ずる施設の名称〕

Jugendkunstschule	青少年芸術学校
Kulturpädagogische Einrichtung	文化教育施設
Kulturpädagogischer Dienst	文化教育機関
Jugendkunstgruppe	青少年芸術グループ
Kreativitaetsschule	創造性学校
Kreativitaetszentrum	創造性センター
Bildkunstschule	造形芸術学校
Kultur-und Kunstwerksutatt	文化と芸術の工房

これらの機関全ての“総称”として「青少年芸術学校 Jugendkunstschule」という言葉があることを理解する視点が、青少年芸術学校の活動についての理解を深めていく上での前提条件になるだろう。こうした名称の違いを認め、あり方の自由さと多様さを許容し、その都度、必要な文化教育施設としての説明句を補完する形で総称の概念として存在することが、「青少年芸術学校 Jugendkunstschule」の大きな特徴であると考ええる。

⑤ “全ての芸術”と“多様性”の根幹となるもの

「全ての芸術が一つ屋根の下に (Alle Kuenste unter einem Dach)」
「多様であることが、強みである (Vielfalt ist unsere Staerke)」

上記は、青少年芸術学校概念を表現する柱となる代表的な二つの言葉である。青少年芸術学校では、あらゆる芸術表現活動¹²があつかわれ、その活動内容の特徴をより強くアピールするために異なる名称を持つ機関が多く存在する。また、文化教育ハンドブックによると、「青少年芸術学校は地域に根ざした活動をしているので、全国一律の青少年芸術学校という形では想定されない」¹³とあり、活動展開の方法も地域により独特である。そのような、一見、異質でバラバラであるかのような青少年芸術学校の軸はなにか。そこに、根幹となる青少年芸術学校の理念が見出せると考えられるが、まだ調査段階であり、ここではその共通項として選定した項目を下記に記載する。その分析については次年度の成果報告書に還元する予定である。

〔全ての青少年芸術学校に類似する 8 つの項目〕

・専門分野と情報伝達手段の多様性	・すべての子どもたちと若者のために開かれている
・教育方法と学習環境の多様性	・社会参加と自己を確立することの推進
・生活環境との関連性	・文化的・社会的専門知識を教えることの同等性
・地域社会への貢献	・他の青少年教育、文化、余暇施設との協力とネットワーク作り

4. 今後の研究課題

- ① PISA 調査後の終日制学校への移行傾向による青少年芸術学校の変化と影響
- ② 大量の移民・難民を受け入れたことによる利用者とカリキュラム内容の変化と影響
- ③ 青少年芸術学校運営者の世代交代による教育内容や制度の変化と影響
- ④ 時代の変化による青少年芸術学校の目的・理念の変化
- ⑤ 児童・青少年の余暇活動のあり方と青少年芸術学校の教育理念の関係性

2020年度に予定していたインタビュー調査を、上記の内容で実施する方向で検討している。文献調査から明らかになってきた具体的な青少年芸術学校の実像に、現在の生きた証人たちによる言葉としてのインタビュー調査の結果を照合し、その教育理念の変遷と現状を明らかにしたいと考えている。

参考文献

- ・ bjke (2003), *Jugendkunstschule. Das Handbuch: Konzepte, Strukturen, Organisation. Ratgeber für kulturelle Initiativen und kulturpädagogische Einrichtungen*, LKD-Verlag
- ・ Hildegard Bockhorst, Vanessa-Isabelle Reinwand, Wolfgang Zacharias (2012), *Handbuch Kulturelle Bildung*, kopaed
- ・ bjke e.V. (2007-2019), *Infodienst-Das Magazin fuer kulturelle Bildung*, Nr.84-Nr.132, LKD-Verlag
- ・ 山成美穂 (2007), 「学校と学校外が重なる芸術教育現場についての一考察：ベルリン・アトリウム青少年芸術学校の「学校プロジェクト」の授業から考える」, 博士論文, 東京藝術大学大学院
- ・ 生田周二、吉岡真佐樹、大串隆吉 (2011), 『青少年育成・援助と教育：ドイツ社会教育の歴史、活動、専門性に学ぶ』, 有信堂
- ・ 廣瀬敏史 (2013). 「日本とドイツの造形美術教育の現状とこれから」, 『東海学院大学紀要』, 7, 269-278
- ・ 清永修全 (2016). 「芸術教育の新たな地平を求めて:ドイツにおける美的・感性的教育の新たな展開をめぐる幾つかの対話から」, 『東亜大学紀要』, 23, 29-41.
- ・ 清永修全 (2017). 「多元文化社会における芸術教育の可能性とその視座:近年のドイツにおけるいくつかの理論的展開について」, 『東亜大学紀要』, 25, 11-29.
- ・ 清永修全 (2018). 「岐路に立つ芸術教育:現代ドイツにおける芸術教育学と芸術の関係をめぐる論争について」, 『東亜大学紀要』, 26, 75-94.

- 1 ここでは、乳幼児から25歳くらいまでの若者を指す。
- 2 一番最初に「Jugendkunstschule」が「青少年芸術学校」と訳されたのは、財団法人世界青少年交流協会（2004年に解散）による日独青少年指導者セミナー報告書によると考えられる。
- 3 ・ Hildegard Bockhorst, Vanessa-Isabelle Reinwand, Wolfgang Zacharias (2012), *Handbuch Kulturelle Bildung*, kopaed, pp.674.
- 4 山成美穂（2007）,「学校と学校外が重なる芸術教育現場についての一考察：ベルリン・アトリウム青少年芸術学校の「学校プロジェクト」の授業から考える」, 博士論文, 東京藝術大学大学院, pp.31.
- 5 ドイツでは児童・青少年のための「音楽学校 Musikschule」の歴史が深く根付いており、「青少年芸術学校 Jugendkunstschule」とは区別されている。
- 6 『bjke (2003), Jugendkunstschule. Das Handbuch』では、副題として「文化的な市民活動と文化教育施設のための案内書 (Ratgeber fuer kulturelle Initiativen und kulturpaedagogische Einrichtungen)」という語句が添えられている。また本文では、青少年芸術学校についての記述には、「Jugendkunstschule und kulturpaedagogischen Einrichtungen」というように、必ず「ならびにに文化教育施設では、」と併記されている。また、ドイツ全土の青少年芸術学校の活動を報告する機関誌『bjke e.V. (2007-2019), Info dienst』には、「文化的な教育のための雑誌 (-Das Magazin fuer kulturelle Bildung)」と併記されている。
- 7 Mechthild Eickhoff, bjke (2003), Jugendkunstschule. Das Handbuch: Konzepte, Strukturen, Organisation. Ratgeber für kulturelle Initiativen und kulturpädagogische Einrichtungen, LKD-Verlag, pp.13
- 8 Bundesverband der Jugendkunstschulen und kulturpaedagogischen Einrichtungen e.V. の略語。ドイツ連邦青少年芸術学校および文化教育施設連盟のこと。本文中では、青少年芸術学校連盟と記載する。
- 9 <https://www.bjke.de/index.php?id=494> (2021年1月4日現在)
- 10 山成美穂（2007）,「学校と学校外が重なる芸術教育現場についての一考察：ベルリン・アトリウム青少年芸術学校の「学校プロジェクト」の授業から考える」, 博士論文, 東京藝術大学大学院, pp.31.
- 11 ・ Hildegard Bockhorst, Vanessa-Isabelle Reinwand, Wolfgang Zacharias (2012), *Handbuch Kulturelle Bildung*, kopaed, pp.678.
- 12 主に、造形美術（絵画、立体、漫画表現、写真、映像、その他のメディア表現など）、デザイン、ファッション、演劇、文学、ダンス、パフォーマンス、音楽などを表す
- 13 ・ Hildegard Bockhorst, Vanessa-Isabelle Reinwand, Wolfgang Zacharias (2012), *Handbuch Kulturelle Bildung*, kopaed, pp.674.